

# よくわかる！

## 学校における食物アレルギー対応



公益社団法人 全国学校栄養士協議会

TEL. 03-6380-4360

<http://www.zengakuei.or.jp/>

食物アレルギーに対応した学校給食には4段階の対応レベルがあり、児童生徒のアレルギーの状況や、学校及び調理場の体制を考えて対応しています。全ての対応において、献立ごとの原材料を記載した詳しい献立表を配って、事故が起こらないようにしています。

### 対応レベル

※対応できるレベルは施設によって異なります。

#### ●レベル1(詳細な献立表対応)

献立ごとの原材料を全て献立表に記載し、保護者に事前に伝えます。保護者は、その情報に基づいて献立の中から除いて食べるもの、または食べる献立と食べない献立を決め、児童生徒に伝えます。

\*詳細な献立表の配付は、学校給食対応の基本であり、レベル2以上の対応でも、あわせて提供することになっています。

#### ●レベル3(除去食対応)

広義の除去食は、原因食物を除いて提供する給食を指し、調理の有無は問いません。

【例】飲用牛乳や単品の果物を提供しない 等

本来の除去食は、調理過程で特定の原材料を除いて提供する給食を指します。

【例】かき玉汁に卵を入れない 等

#### ●レベル2(弁当対応)

##### 一部弁当対応

食べられない一部の献立(主食や主菜、果物など)の代わりに部分的に家庭から弁当を持参します。

##### 完全弁当対応

給食を全て食べず、家庭から弁当を持参します。

#### ●レベル4(代替食対応)

除去した食材に対して、代替りの食材を加えて提供する給食のことをいいます。

代替食の調理には事前の準備と人手や調理環境が必要になるため、実際にはごく一部の調理場でしか実施できません。



全国の学校から集めたヒヤリハット事例から1例紹介します。

《事例》 **家庭で飲んでみましたか？**

学年 小学3年

アレルギー 乳（飲用牛乳）

経過 前年度まで飲用牛乳除去の指示があった。春休み、医師の診断で飲用牛乳摂取可能となり、飲用牛乳除去対応を解除した。新年度、飲用牛乳摂取後30分頃から、目の腫れ、口腔内のかゆみ、蕁麻疹の症状を訴え、近くの病院を受診した。

原因 医師の診断の下での解除であるため、保護者も学校も安心して除去解除を行った。しかし、家庭では飲用の確認ができていなかった。

**対策**

○ 解除の確認

解除指示があった場合は、まず、家庭での解除を確認し、学校に連絡する。学校では、食物アレルギー対応委員会で対応を検討する。

**詳しい情報は  
信頼できるサイトへ**

- 公益財団法人日本学校保健会
- 公益財団法人日本アレルギー協会
- 日本小児アレルギー学会
- 食物アレルギー研究会
- 一般社団法人日本アレルギー学会
- 厚生労働省
- 文部科学省
- 独立行政法人環境再生保全機構

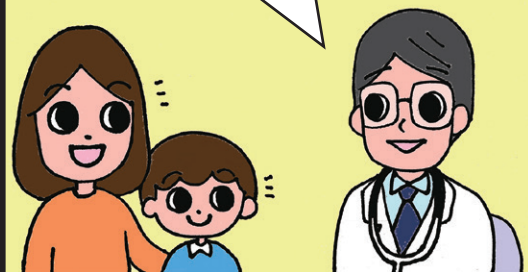
☆ **更新年月日を要チェック！**

5年も過ぎればその情報はもうすでに古くなっているかもしれません。医学は日進月歩で変化しています。

**血液検査の結果だけで判断しないで！**



血液検査結果はあくまでも参考値です。食物経口負荷試験を行いながら食べられるものを探していきましょう！



※食物経口負荷試験とは、アレルギーが疑われる食品を複数回に分けて摂取させ、症状の有無を確認する検査です。原因食物の確定診断、安全に摂取できる量の決定または耐性獲得の診断のために行います。